

Abnormal white matter structure in hoarding disorder

溝部, 太郎

<https://hdl.handle.net/2324/4795541>

出版情報 : 九州大学, 2022, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : (c) 2022 Published by Elsevier Ltd.

(別紙様式2)

氏名	溝部 太郎
論文名	Abnormal white matter structure in hoarding disorder
論文調査委員	主査 九州大学 教授 須藤 信行 副査 九州大学 教授 中川 尚志 副査 九州大学 教授 二宮 利治

論文審査の結果の要旨

ためこみ症(HD)の神経画像の予備的研究では、HDは課題に関連した神経活動の異常を示すことが示唆されているが、HD患者における白質路の変化を調査した論文はない。申請者らの研究の目的は、HD患者における主要な白質路の異常を調査することである。Tract-based spatial statistics(TBSS)を用いて、HD患者25名と健常対照者(HCs)36名の全脳的主要な白質路の異常を調査した。さらに、臨床的特徴との相関関係を調査するために関心領域の事後解析を実施した。TBSSでは、対照群と比較してHD患者の白質路において拡散異方性比率(FA)の低下と放射拡散係数(RD)の増加を示した。関心領域の事後解析では、ためこみ症状の重症度と左内包前脚(ALIC)のFAは負の相関を示し、さらに、ためこみ症状の重症度と右前視床放線(ATR)のRDは正の相関を示した。HD患者では、前頭皮質視床回路、前頭頭頂葉ネットワーク、前頭辺縁系経路などの前頭白質路に広範な変化が認められた。以上の研究結果は、HDにおける、ためこみ症状の重症度に関連する前頭白質路の異常と、HDの認知機能障害に関わる皮質領域の異常との関連を示唆している。これらの知見はHDの神経生物学的基盤を理解するうえで有用であると考えられる。

以上の成果はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士(医学)の学位に値すると認める。